

## 【豆知識】

①なぜ、藍の植物で布が青く染まるのでしょうか？

藍のみどり色の葉の中に「インディガン」というものがふくまれています。「インディガン」そのものは無色で色がありません。「インディガン」は無色なので、藍の生葉をしぼった汁の色は葉緑素の色（緑色）ですが、藍の葉の汁を布に染みこませてから空気や水、太陽の光にふれると、汁にふくまれる無色の「インディガン」から青色の「インディゴ」というものができます。布にしみこんだ汁のうち、葉緑素は水に溶けるので洗うと流れ落ちてしまいます。でも、「インディガン」が変化した「インディゴ」は水に溶けないので、水洗いしたあと布に「インディゴ」が残り、布は青く染まります。

②藍染は3種類ある？

1つ目は、すくも（藍の葉を発酵させたもの）を使い、自然の原料のみで仕立てる天然灰汁発酵建て。

2つ目は、インディゴ色素やソーダ灰やハイドロと呼ばれる化学薬品を使った化学建てで藍の乾燥葉を使います。

3つ目は、今回の新鮮な刈り取ったばかりの藍の葉を使用する藍の生葉染です。

③草木染とは？

今では、布に色に染めるためにほとんどは技術革新により石油や石炭から作った化学染料を使っています。でも昔の人々は草木や植物などを使って色々な布を染めていました。藍は人類最古の染料との説があり、紀元前から使用されていたようです。今回使用したタデ藍の藍染は、日本で今から1500年くらい前から行われてきたそうです。藍染の青い色は「ジャパンプルー」とも言われています。

④たで藍を育てるには？

春、種子をまき、15センチぐらいになったら本畑に定植する。7月末と8月末の2回刈り取るが、刈り取った藍の草は乾燥させておく。

参考資料：熊本県博物館ネットワークセンター「草木染の会」資料

草木染の事典 山崎青樹 著 株式会社東京堂出版 昭和56年3月10日初版

「AIZOME ZABO」HPより <https://www.zaboblue.com/about.html>